

新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン

2020年9月1日
多摩川親善大会連合会

1. 開催の条件

- (1) 緊急事態宣言が解除されている。
- (2) 東京都および各市が自粛要請など、何らかの要請を発出していない

2. 大会への参加不参加の判断

以下に該当する方は、大会への参加をご遠慮ください。

- (1) 発熱、咳、倦怠感などの風邪の症状や味覚口臭覚の異常がある。
- (2) 同居家族や身近な知人に新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる。
- (3) 大会前14日以内に感染者、あるいは感染が疑われる人と接触や濃厚接触がある。
- (4) 大会前14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域等への渡航また当該在住者と濃厚接触がある。

上記に当てはまる方がいる場合、チーム単位で出場を辞退していただく場合がございます。

3. 留意事項

- (1) チーム責任者は、当日来場するチーム関係者の氏名、連絡先、当日の体温等をリストに取りまとめ、大会本部へ提出する。 リストに記入がなく、当日来場する方は必ず大会本部へ立ち寄り、必要事項を記入する。
- (2) 大会会場となる各市および各連盟の感染予防対策がある場合は、それに従う。
- (3) 手指の消毒と手洗い・うがいを併用してこまめに行い、感染予防に努める(各ベンチに手指用アルコール消毒液を設置)。
- (4) 感染拡大予防対策の観点から、以下のことは行わない。
 - ・ 水分補給のための飲み回しやコップの共用
 - ・ 密集での声だしや応援歌を歌う等の行為
 - ・ 試合開始。終了時のホームベース付近の整列と握手(ベンチ前で無言の礼のみとする)
 - ・ タオルや飲み物、道具の共用(やむを得ない場合は使用前後に消毒する)
 - ・ 練習や試合中の素手でのハイタッチや握手
 - ・ 共用の道具を触った手で、目、鼻、目を触ること
 - ・ グラウンドに痰や唾を吐く行為
- (5) マスクは常に携帯し、以下の場合、チーム関係者はマスクを着用する。
 - ・ 移動時や観戦時などの競技中以外のとき

- ・ ベンチ内でノーシャルディスタンスを確保できないとき
 - ・ ベンチ外に出ても構わないが、マスクはビニール袋に入れてポケットに携帯する
 - ・ チーム内でミーティングを行うとき
 - ・ 円陣を組んで話をしたり近い距離で指導・指示したりするとき
- ただし、熱中症予防のため必要に応じて外すことは可とし、塁審の着用は義務付けないが、球審は着用することが望ましい。
- (5) 試合中、マウンド上に集合して話をする際は、グラブを日に当て、距離を確保する。
 - (6) チーム関係者は、バックネット裏・ベンチ裏以外の場所で観戦し、大声での応援やハイタッチなどはしない。
 - (7) 会場で昼食をとることは避け、試合前の軽食については、周囲の人と十分な間隔をとり、会話を控える(対面しないこと)。
 - (8) 試合終了後は、チーム関係者に協力を仰ぎ、ベンチやバントケースなどを消毒する。
 - (9) グラウンド退場後は、各チーム速やかに解散する。
 - (10) チーム関係者、審判、役員など大会関係者全員の氏名・年齢・住所・連絡先を大会本部へ提出してもらい、新型コロナウイルス感染症陽性者が出た場合には関係機関に公表する。
 - (11) 大会期間中、再度緊急事態宣言が発出またはチーム内に感染者が確認された場合、大会を中断もしくは中止とする。

4. 運営に関して

- (1) 大会運営スタッフも検温を徹底し、発熱・咳・咽頭痛・倦怠感等の症状ある場合は参加しない。
- (2) 受付では、状況に応じて、フェイスシールドとマスク、ビニール手袋を着用する。
- (3) 大会運営は開場前に会場消毒をしつかりと行う。
- (4) 消毒液を各ベンチに準備し、定期的に補充する。
- (5) 大会本部が3密にならないように事前に参加チームや審判へ注意事項を連絡する。
- (6) 大会関係者が各会場で感染防止対策ができているか巡回し、必要に応じて注意喚起をする。

この感染拡大予防ガイドラインは、以下の団体の資料を参考に作成しました。詳しくはホームページ等で確認ください。また、今後の状況によって、加筆修正をいたします。

- ・ 公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
- ・ 「スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」
- ・ 一般財団法人全日本野球協会「新型コロナウイルス感染予防のためのガイドライン」
- ・ 公益財団法人全日本軟式野球連盟「JSBB 感染予防対策ガイドライン」
- ・ 公益財団法人東京都軟式野球連盟「新型コロナウイルス感染症予防について」